

# 雌阿寒岳

## 1 概況（平成 15 年 3 月）

上旬から中旬にかけて地震回数がやや多くなりましたが、噴煙の状況に変化はありませんでした。2000 年以降ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙活動はやや弱まる傾向にあります。

## 2 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙高度は概ね火口上 100～200m 程度で推移し、赤沼西方噴気孔、中マチネシリ火口についても特別な変化はありませんでした。

## 3 地震活動の状況

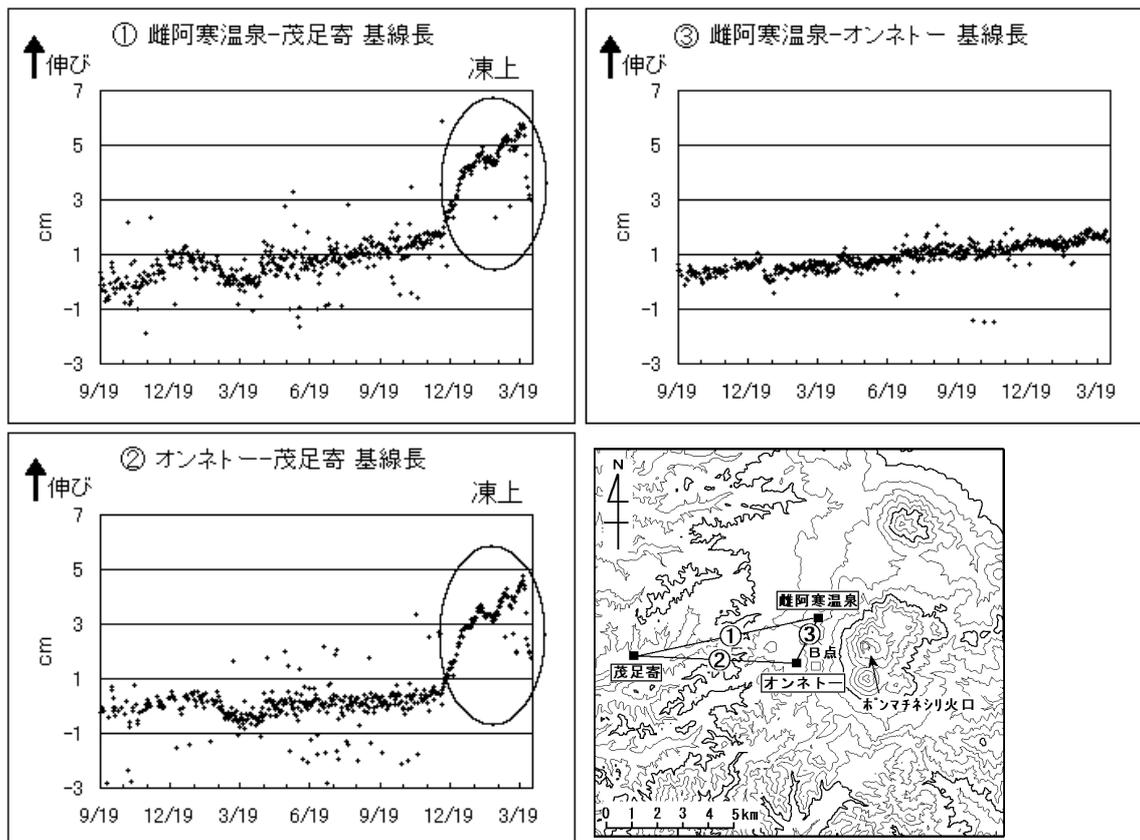
上旬から中旬にかけて 1 日あたりの地震回数が 10 回以上の日が続き、3 月の月回数は 223 回とやや多くなりました。しかし、月別の活動経過図を見るとこの程度の地震増加は今までの活動の範囲内です。震源は従来と変わらずポンマチネシリ火口の浅いところと推定されます。火山性微動は観測されませんでした。

月別地震・微動回数（B 点）

2002～2003 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
地震回数	17	11	20	32	25	34	21	20	39	204	83	223
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

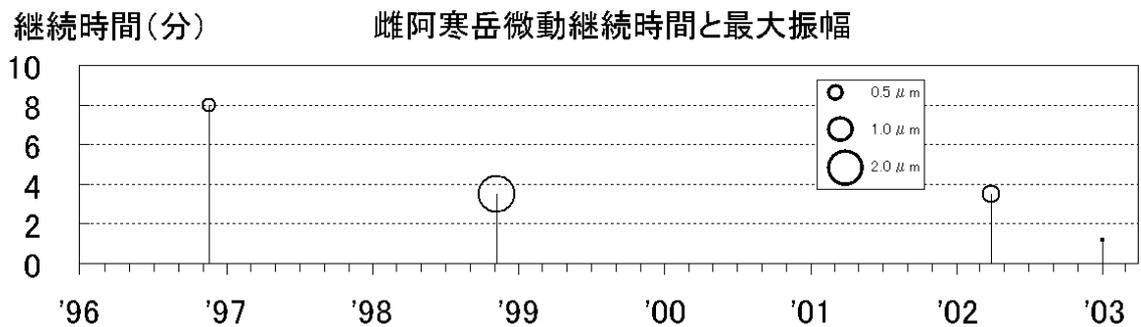
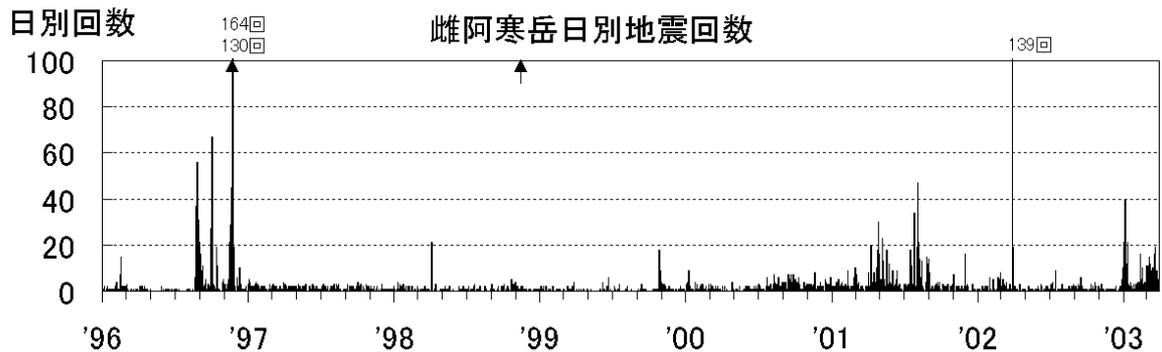
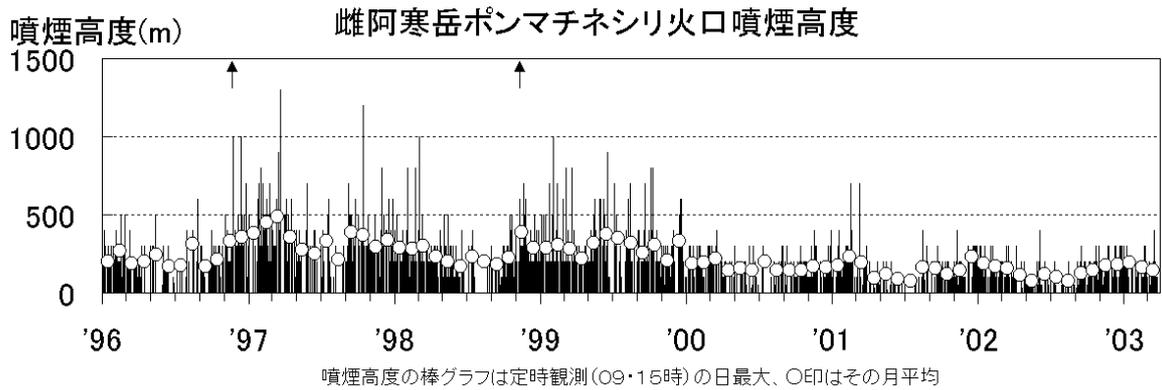
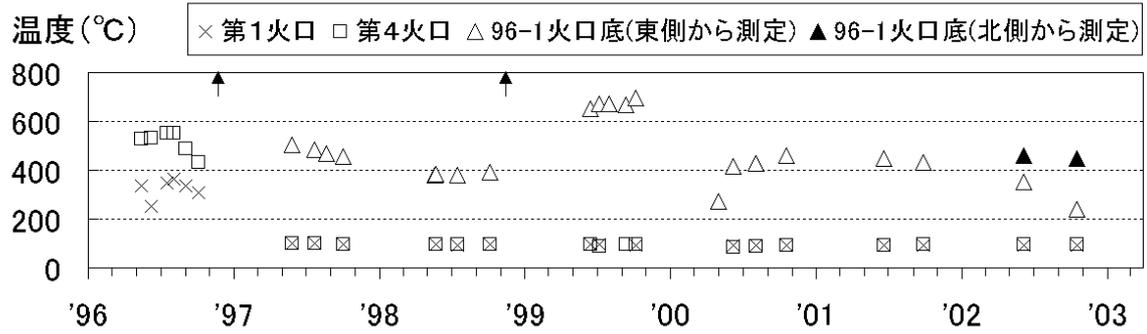
## 4 地殻変動の状況

G P S 観測で見られる基線長の変化は主に季節変動が原因と推定され、火山活動に起因すると考えられる変化はありません。昨年 12 月頃から の基線長に見られていた伸びの変化（図中 で示した部分、凍上と推定）は縮みに転じました。

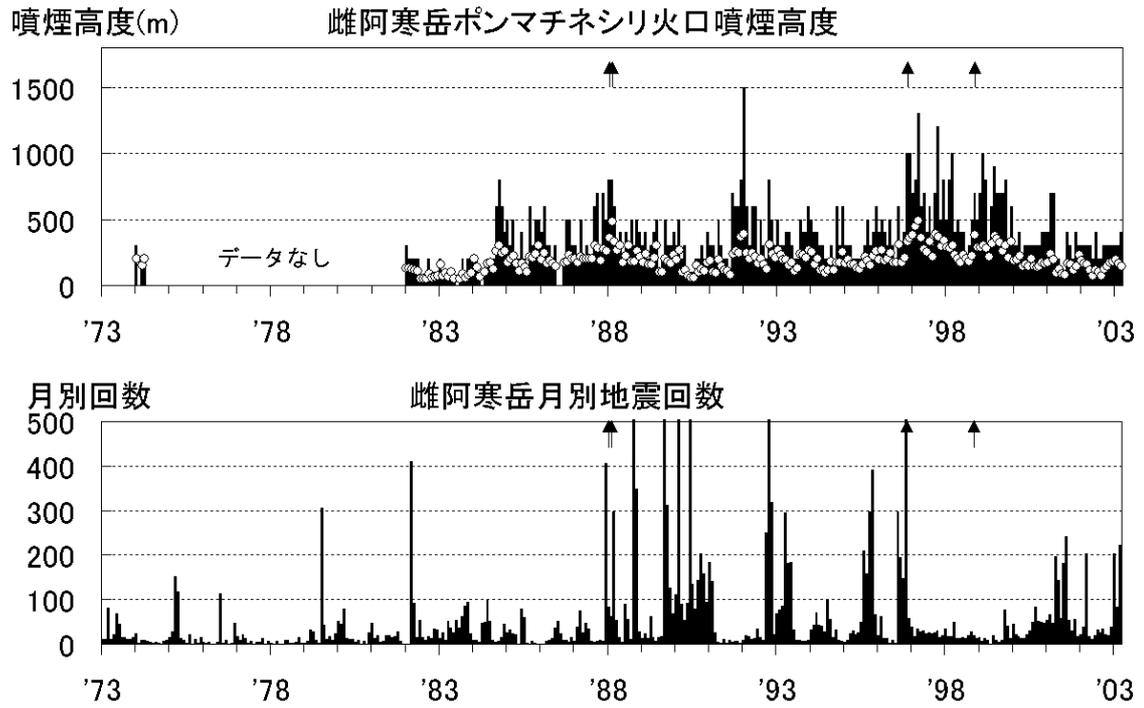


雌阿寒岳基線長変化（2001 年 9 月 19 日～2003 年 3 月 31 日）

雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



雌阿寒岳火山活動経過図(日別、1996年1月1日~2003年3月31日) 印は噴火



雌阿寒岳火山活動経過図(月別、1973年1月~2003年3月) 印は噴火